

ファイザープログラム

心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

2018 年度  
選考結果のご報告

2018 年 12 月

ファイザー株式会社



Working together for a healthier world™  
より健康な世界の実現のために

## — 目 次 —

1. プログラム紹介	1
2. 2018 年度新規助成 応募状況	2
3. 2018 年度助成対象プロジェクト一覧	4
4. 新規助成の選考経過と助成の特徴	6
5. 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	8
6. 継続助成の選考経過と助成の特徴	12
7. 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	14

## プログラム紹介

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第18回となる本年度は、新規助成として全国から104件のご応募をいただき、そのうち7件（助成総額1,388万円）が、また、継続助成として8件（助成総額1,500万円）が、それぞれの選考委員会による厳正なる選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

### ■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること。
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること。

### ■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の開発と提供）だけでは十分に満たすことのできないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること。
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源が十分に整っていない分野における市民活動とともに、市民研究も重点的に支援していること。
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの獨創性・試行性に評価の重点を置いていること。
- (4) 単年だけではなく、最長3年間の継続した支援も行なっていること。
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も前向きに助成すること。
- (6) 中間時点でのインタビュー実施によるフォローアップを行なっていること。
- (7) 市民活動・市民研究の社会的認知の向上を目的とした広報活動も重視していること。

### ■ 助成対象

「中堅世代」の人々（主に30・40・50歳代）の心とからだのヘルスケアに取り組む市民活動および市民研究。

### ■ 選考委員会

#### 《新規助成》

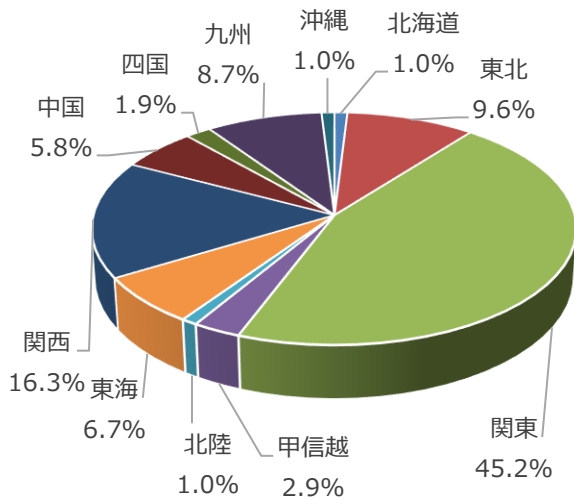
委員長	西村 ユミ	首都大学東京 健康福祉学部／人間健康科学研究科 教授
委員	青木 聖久	日本福祉大学 福祉経営学部 教授
委員	井ノ上 美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	熊谷 紀良	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター 統括主任
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事

#### 《継続助成》

委員長	川島 ゆり子	愛知教育大学 福祉講座 教授
委員	青木 聖久	日本福祉大学 福祉経営学部 教授
委員	井ノ上 美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事
委員	西村 ユミ	首都大学東京 健康福祉学部／人間健康科学研究科 教授

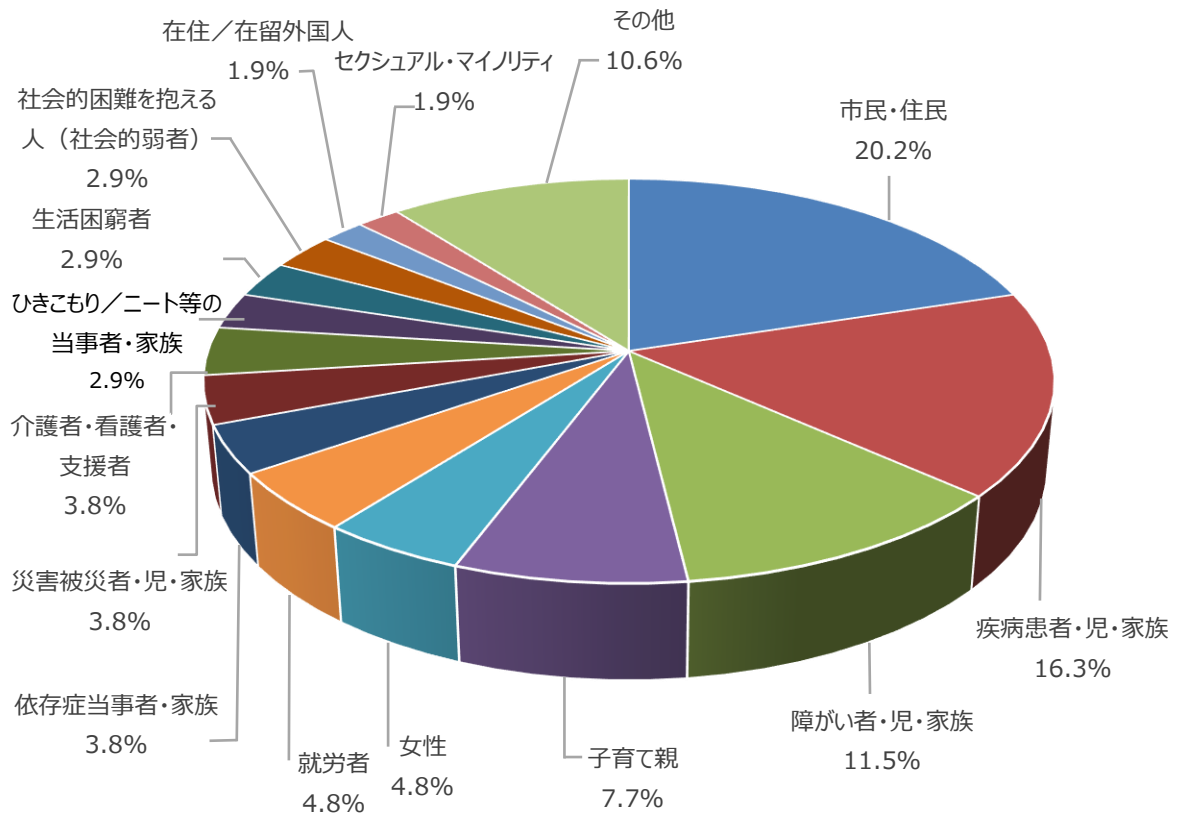
# 2018 年度新規助成 応募状況

## 1. 団体所在地



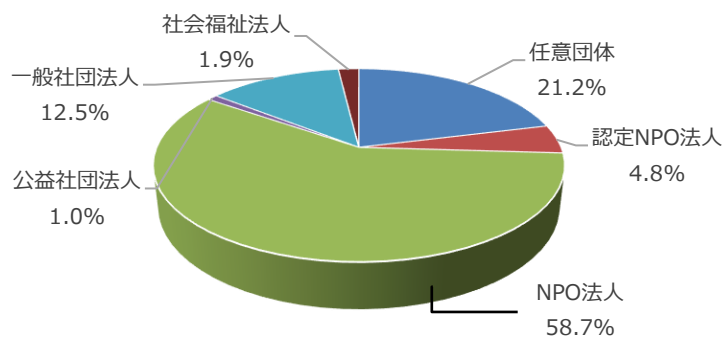
都道府県	団体数	都道府県	団体数
北海道	1	滋賀	1
東北	10	京都	3
青森	0	大阪	5
岩手	2	兵庫	6
宮城	4	奈良	0
秋田	3	和歌山	2
山形	0	鳥取	0
福島	1	島根	0
関東	47	中国	6
茨城	1	岡山	1
栃木	0	広島	2
群馬	0	山口	3
埼玉	6	徳島	0
千葉	2	四国	2
東京	31	香川	0
神奈川	7	愛媛	1
甲信越	3	高知	1
山梨	2	福岡	2
長野	0	佐賀	1
新潟	1	九州	9
北陸	1	長崎	0
富山	1	熊本	1
石川	0	大分	1
福井	0	宮崎	4
東海	7	鹿児島	0
静岡	2	沖縄	1
愛知	3	計	104
岐阜	1	計	104
三重	1		

## 2. 支援対象の分類

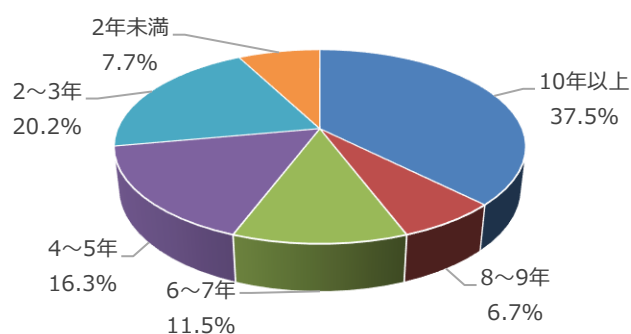


### 3. 組織形態

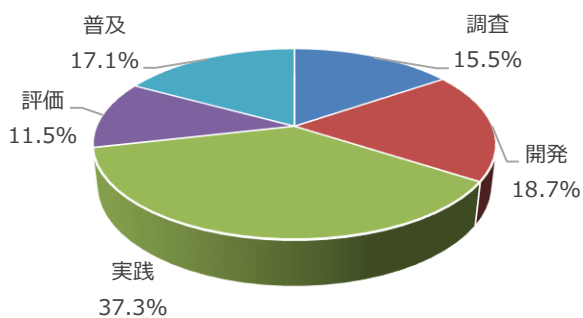
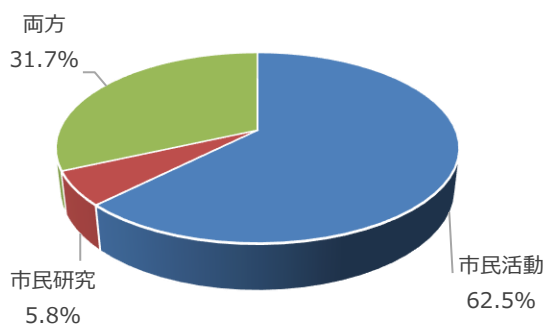
#### ○法人種別



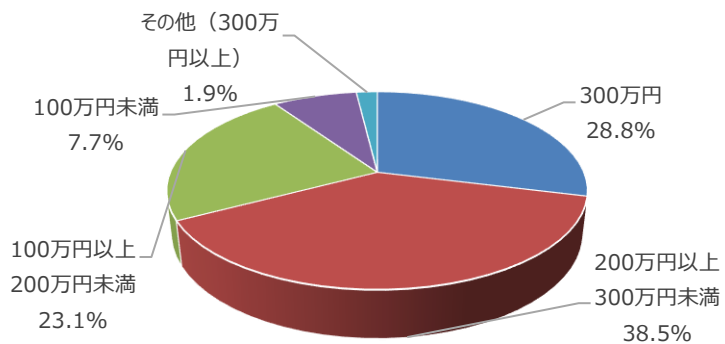
#### ○活動年数



### 4. 応募種別



### 5. 応募金額



## 2018 年度助成対象プロジェクト一覧

### — 新規助成（助成1年目） —

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
1	○		原発事故後の健康と心	NPO はっぴーあいらんど☆ ネットワーク	鈴木真理	福島	181
2	○		子育てに困難を抱える母親を対象に 美容ケアサロンを利用した支援活動	特定非営利活動法人 ソシオキュアアンド ケアサポート	渡辺新子	東京	139
3	○	○	刑務所収容者の健康実態調査と 健康管理支援及び社会復帰後の 心のケア	特定非営利活動法人 マザーハウス	五十嵐弘志	東京	260
4	○	○	ひきこもりピアサポーター 養成研修及び実践活動に関する 研究と普及事業	特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり 家族会連合会	伊藤正俊	東京	229
5	○		地域の福祉団体と共に就労困難な 中堅世代の社会参加を促す ふっくら布ぞうり事業	一般社団法人 あゆみ	工藤賀子	東京	182
6		○	中堅世代の ALLY に向けた インタビュー調査	特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ	村木真紀	大阪	260
7	○		中堅世代を対象とした 伴走型支援の理念を取り入れた 「生笑一座」公演事業	生笑一座実行委員会	西原宣幸	福岡	137
助成総額 [7 件・合計]				<b>1,388 万円</b>			

(2018 年度の助成期間は、2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

## 2018 年度助成対象プロジェクト一覧

### — 継続助成 —

活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)	
<b>[助成 2 年目]</b>							
1	○	○	中堅世代の加害者家族の 支援モデルの構築	特定非営利活動法人 World Open Heart	阿部恭子	宮城	250
2	○	○	中堅世代の刑事被拘禁者向け 医療相談事業	特定非営利活動法人 監獄人権センター	海渡雄一	東京	200
3	○		中堅世代の病と生活困難者への 自立に向けた寄り添い型支援	特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州	村上晃	長野	124
4	○		孤立する難民と地域社会の市民を つなぐ関係構築プロジェクト	特定非営利活動法人 名古屋難民支援室	名嶋聰郎	愛知	250
<b>[助成 3 年目]</b>							
5	○		埼玉県西部地区における 未就学時期の難病児子育て 応援プロジェクト	社会福祉法人 はなみずき会	都築公子	埼玉	250
6	○	○	デート DV の実態から中堅世代の 生きづらさと適切な支援方法を 明らかにするための研究	認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ	阿部真紀	神奈川	171
7	○		DV 被害等による生きづらさを 抱えた女性のための居場所づくり 事業	認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	正井禮子	兵庫	135
8	○	○	沖縄コーヒーの活用と循環型事業 でひきこもりの生き方開拓	特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄	近藤正隆	沖縄	120
<b>助成総額 [8 件・合計]</b>						<b>1,500 万円</b>	

(2018 年度の助成期間は、2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

## 新規助成の選考経過と助成の特徴

新規助成 選考委員長 西村 ユミ

本年度（2018年度）の応募件数は104件であり、昨年度から8件の増加がみられ、すべての地域ブロックから応募をいただきました。地域別に見ると、関東圏が最も多く、関西、東北、九州の順となっております。予備選考では54件が選出され、例年と同等程度が本審査対象になりました。本審査対象は、いずれも中堅世代のヘルスケアにおいて重要な課題に取り組んだプロジェクトでしたが、複数の審査を経て、特にファイザープログラムの趣旨に合致し、発展性のある7件を助成対象に決定しました。以下に選考過程と結果を示します。

### 【選考経過と結果】

新規助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間： 6月1日（金）～6月15日（金）
- ・ 応募件数： 104件（参考：昨年度96件）
- ・ 予備選考委員会： 7月5日（木）
- ・ 本審査対象： 54件
- ・ 書類選考： 7月13日（金）～8月1日（水）
- ・ 選考委員会： 8月8日（水）
- ・ 選考結果： 助成候補6件、補欠3件
- ・ 現地ヒアリング： 8月中旬～9月中旬
- ・ 選考委員長決裁会合： 10月10日（水）
- ・ 助成決定： 助成件数7件、助成総額1,388万円

\*上記プロセスと並行して、ファイザー担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

### 【書類選考・選考委員会】

書類選考は、委員長も含めて5名の選考委員によって行われました。各委員が、専門性を活かし、ファイザープログラムのテーマとする「中堅世代の心とからだのヘルスケア」に関する市民活動・市民研究という視点から、選考基準に沿って評価を行いました。この審査においては、各委員が推薦5件、準推薦2件の計7件を選出し、評価結果と推薦理由および助成にあたっての課題を提出しました。

その結果、委員1名以上の推薦が付いたプロジェクトは19件あり、その内、「推薦2・準推薦2」（2名の推薦と2名の準推薦が付いたプロジェクト）が1件、「推薦2・準推薦1」が1件、「推薦2」が4件、「推薦1・準推薦1」が1件、「推薦1」が12件となりました。すべてのプロジェクトに対して、各委員が評価できる点と課題を述べ、その後に議論をするというステップを踏みました。意見が分かれる場合は、さらに問題点などを具体的に提示し、全委員が納得するまで議論を重ねて「助成候補」と「補欠」を決定しました。

選考委員会では助成候補6件と補欠3件が選出されましたが、その後に行われた事務局のヒアリングの結果を受けて、選考委員長決裁会合において助成候補6件に補欠1件を加えた7件を助成対象に決定しました。



## 【助成プロジェクトの特徴】

本年度の選考において採択されたプロジェクトの特徴は、次の通りとなります。

### 1. 当事者によるピアサポート

「刑務所収容者の健康実態調査と健康管理支援及び社会復帰後の心のケア」(マザーハウス)は、入所受刑者に対する健康支援の課題を指摘しつつ、その実態を把握することで、入所中の健康管理と社会復帰後のケアに結びつけようとするプロジェクトです。団体の中心メンバーが、刑事収容施設の服役経験を持ち、彼らが自らの経験とネットワークをもとにしているからこそ取り組める独自性と発展可能性のある内容となっております。

「中堅世代を対象とした伴走型支援の理念を取り入れた『生笑一座』公演事業」(生笑一座実行委員会)も、元ホームレス当事者が主たるメンバーであり、「生きてさえいればいつか笑える日がくる」ことを伝える公演活動というユニークなピア支援プロジェクトです。

「ひきこもりピアサポーター養成研修及び実践活動に関する研究と普及事業」(KHJ 全国ひきこもり家族会連合会)は、ひきこもり経験のある本人や家族が当事者の立場から訪問等の支援を行えることを目的に、ピアサポーター養成研修事業を展開し、ピアの拡張によって支援のネットワークを広げることを試みます。

こうしたピアサポートは、支援を受ける者が将来、支援者になりうる可能性と発展性を持ったプロジェクトとなることが期待できます。

### 2. ユニークな実践

「子育てに困難を抱える母親を対象に美容ケアサロンを利用した支援活動」(ソシオキュアアンドケアサポート)は美容ケアサロンを、「地域の福祉団体と共に就労困難な中堅世代の社会参加を促すふっくら布ぞうり事業」(あゆみ)は布ぞうり制作を、「原発事故後の健康と心」(NPO はっぴーあいらんど☆ネットワーク)は「ぷちや会」という実践を取り入れ、参加への敷居を下げる工夫をしていました。ユニークな実践を取り入れることで、当該プロジェクトを求める人々に支援が行き届き、新たなネットワークづくりにつながることを期待できます。

### 3. 情報の見える化

「刑務所収容者の健康実態調査と健康管理支援及び社会復帰後の心のケア」(マザーハウス)は刑務所収容者の健康実態を明らかにしようとし、「中堅世代の ALLY に向けたインタビュー調査」(虹色ダイバーシティ)は職場において性的マイノリティを理解し支援する人の実態を調査します。いずれもこれまで可視化されていない実態を詳らかにする市民調査だからこそ実現するプロジェクトと思われます。

## 【おわりに】

本年度の選考に関わらせていただき、応募プロジェクトの内容から、私たちも社会の課題を突き付けられたように思いました。いずれもファイザープログラムが大切にしてきた、地域で暮らす人々の人権を守り、暮らしを下支えするプロジェクトであり、応募団体の熱意も伝わってきました。残念ながら助成対象とならなかったプロジェクトも含め、応募下さったすべての団体の皆様の今後の活動にエールを送りたく思います。助成対象となったプロジェクトに対しては、具体的な活動の成果を期待するとともに、提案された活動が地域に根付いていくことを希望します。

## 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

プロジェクト名：	原発事故後の健康と心
助成種別：	市民活動
団体名：	NPO はっぴーあいらんど☆ネットワーク
代表者名：	鈴木 真理
主な活動地域：	福島県

本団体は、東日本大震災による東京電力福島第一原発事故後に、福島に住む母親たちに正面から向き合い、健康相談会やお話し会、お茶会（ぷちゃ会）などに取り組んできた。

本プロジェクトは、東日本大震災と福島第一原発事故による健康への不安やストレスを持つ人々の心のケアを目的に、これらの取り組みを継続していくものである。行政による健康調査も取り組まれているが、オープンには話しにくい人がいることも考えられる。困ったときに SOS を発信できるコミュニティづくりを視野に入れた活動は重要であろう。また、健康相談会の問診票とヒアリング内容をもとに、相談結果をデータ化し、現状の把握と今後の課題分析を行うことも計画しており、公的な調査などでは表に出てきにくい課題が可視化されることも期待される。

母親たちに寄り添った丁寧な活動を継続するとともに、これまでの取り組みから見えてきた当事者の声を社会に発信していくことを期待したい。

プロジェクト名：	子育てに困難を抱える母親を対象に美容ケアサロンを利用した支援活動
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 ソシオキュアアンドケアサポート
代表者名：	渡辺 新子
主な活動地域：	全国

本団体は、精神的、肉体的、社会的な困難を抱えている人に対し、人道的、福祉的な観点から医療や福祉の知識に基づく美容ケア（ソシオエステティック）を行っている。

DV など何らかの事情から母子生活支援施設の支援を受ける母親の中には、子育てや就労に困難を抱え、心に余裕を持たない生活を送っている人たちがいる。本プロジェクトではそうしたストレスを抱える母親たちに対する癒しや励まし、さらには QOL の向上を目的として、気軽に立ち寄る場を提供し、傾聴を伴う美容ケアを実施する。実践後は活動評価を行い、ガイドブック作成により活動の普及にも取り組む。

孤立しやすい環境にある母親たちに、共感を持ってつながる仕組みとして評価した。母子世帯には十分な教育を受ける環境が整っていないことも多く、一方向からのサービス提供に留まらず、美容ケアの知識や技術を当事者自身が身に付け、積極的な社会参加につながることを期待したい。

**プロジェクト名：** 刑務所収容者の健康実態調査と健康管理支援及び社会復帰後の心のケア  
**助成種別：** 市民活動・市民研究  
**団体名：** 特定非営利活動法人 マザーハウス  
**代表者名：** 五十嵐 弘志  
**主な活動地域：** 東京都

本団体は、刑事収容施設の服役経験を持つメンバーをリーダーに、受刑者が社会との接点を失わないよう、文通ボランティアなどによって全国の受刑者や出所者と交流を続け、専門家とのネットワークを広げてきた。

この活動を通じ、施設ごとの医療環境の格差や出所後の孤立といった問題を把握し、これを解決するために、本プロジェクトでは矯正施設に入所中の受刑者への健康実態調査と健康管理支援、出所後の居場所づくりによる心身のケアを軸とした取り組みを行う。

当事者としての経験が基盤にあり、文通による信頼関係をベースに受刑者の健康実態を把握し、健康管理の支援プログラムを開発することは、市民活動ならではの独創性と行政ではできないことに取り組む民間らしさがある。実態調査の結果を活かすとともに、幅広い市民の参加を得るよう進めていくことを期待したい。

**プロジェクト名：** ひきこもりピアサポーター養成研修及び実践活動に関する研究と普及事業  
**助成種別：** 市民活動・市民研究  
**団体名：** 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会  
**代表者名：** 伊藤 正俊  
**主な活動地域：** 全国

本団体は、ひきこもり状態にある本人とその家族に対し、同じくひきこもり経験のある本人や家族が当事者としての立場から訪問などの支援が行えるよう、「ひきこもりピアサポーター」の養成と実践活動に取り組んできた。

本プロジェクトでは、本人と家族への支援に関するミスマッチや課題の解消をめざし、ピアサポーター養成研修の充実を図る。また、ピアサポーターの活動調査とケースの収集・分析を通じて、スーパーバイズの体系化やピアサポーターへのフォローアップの仕組みづくりに取り組む。

ひきこもり状態の長期化と、本人と家族の高齢化は進行している。ピアサポーターの調査を通じて、その実態と具体的なニーズを把握し、ピアサポーター養成が体系化され、実践が普及することを期待したい。

プロジェクト名：	地域の福祉団体と共に就労困難な中堅世代の社会参加を促すふっくら布ぞうり事業
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人 あゆみ
代表者名：	工藤 賀子
主な活動地域：	東京都

本団体は、東日本大震災の被災地において、ものづくりを介して新たなコミュニティづくりや生きがいつくりなどに取り組んできた。東北での活動実績と経験を踏まえ、2017年には首都圏での活動も開始している。

首都圏での活動では、発達障害やうつ病、介護など様々な事情により就労が困難な状況にある中堅世代の女性が、ものづくりの技術を習得し、成功体験を積み重ねる中で自己肯定感を高め、社会とつながることをめざしていく。

本プロジェクトは、ものづくりを通じて、個々人の役割や社会の可能性を引き出す魅力を秘めている。首都圏での活動では福祉的な課題を抱える人々が対象となるため、地域の福祉機関や団体と連携しながら、丁寧なアプローチが図られていくことを期待したい。

プロジェクト名：	中堅世代の ALLY に向けたインタビュー調査
助成種別：	市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ
代表者名：	村木 真紀
主な活動地域：	大阪府・東京都

本団体は、企業や教育機関等を対象とした LGBT 研修、コンサルティングなどを通じて、性的マイノリティが働きやすい職場づくりを支援し、すべての人々が生きやすい社会づくりをめざしている。

本プロジェクトでは、企業内で ALLY (アライ:性的マイノリティについて理解し、支援する人) となる中堅世代社員を対象に、支援者としての活動の中で困難を感じることや今後の展望について調査を行い、その結果を「職場における LGBT&ALLY サポートブック」作成につなげ、啓発ツールに利用していく。

LGBT の就労環境に関する課題をデータとして可視化し、企業や行政などの職場環境や社会環境に直接働きかける点に特徴があり、調査により ALLY の可視化とエンパワメントが可能になるよう先進的で汎用性のある発信を期待したい。

プロジェクト名：	中堅世代を対象とした伴走型支援の理念を取り入れた「生笑一座」公演事業
助成種別：	市民活動
団体名：	生笑一座実行委員会
代表者名：	西原 宣幸
主な活動地域：	福岡県・全国

本団体は、元ホームレス当事者を主要メンバーとして構成されており、これまでの経験や思いを基にして、小中高校への公演訪問を積み重ねてきた。

これらの取り組みを踏まえ、本プロジェクトでは中堅世代を対象にして、企業研修や市民講座、PTA 研修会などで公演事業を実施する。

現代社会は、多くの人が生きづらさを感じている。社会とのつながりや情報、支援の差により、今の暮らしに違いが出ることもある。そのような中、本団体が公演という形で表現する取り組みは、多くの人に「生き直し」を含めた多様なメッセージを送ることになる。とりわけ、本団体が伴走型支援として「問題解決のための支援ではなく、存在に対する支援」を志している部分には説得力がある。

中堅世代の多くの人たちが生き方のヒントを得られるものとして、本プロジェクトに期待したい。

## 継続助成の選考経過と助成の特徴

継続助成 選考委員長 川島 ゆり子

本年度、継続助成の選考委員長を務めさせていただきました。今までは、選考委員の立場としてそれぞれの応募団体の応募資料を熟読し、いくつかの選考基準に基づきながらも主観的な自由な意見を述べさせていただいていましたが、本年度、各委員の意見を取りまとめ助成の採択、助成金額の決定に関する議事進行をさせていただくにあたり、助成が決定した団体だけではなく、継続助成にご応募いただいた団体が感じておられるご苦勞やその活動の意義に思いをはせながら、重い責任とやりがいを感じておりました。以下、継続助成の選考経過と本年度の助成の特徴について述べさせていただきます。

### 【選考経過と結果】

継続助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・応募期間： 8月10日（金）～8月20日（月）
- ・応募件数： 14件（継続2年目：7件、継続3年目：7件）
- ・書類選考： 9月1日（土）～9月18日（火）
- ・選考委員会：9月21日（金）（継続2年目：7団体によるプレゼンテーション実施）  
9月24日（月・祝）（継続3年目：7団体によるプレゼンテーション実施）
- ・選考結果： 助成件数8件（継続2年目：4件、継続3年目：4件）  
助成総額1,500万円

\*上記プロセスと並行して、ファイザー担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

### 【助成の特徴】

#### 1. 見えにくいニーズの可視化

採択された団体の活動の特徴の一つとして、「見えにくいニーズの可視化」を挙げることができます。社会の中である程度課題が共有化され、社会の問題として解決しなければならないことが理解されている活動に対しては、市民から寄付が寄せられたり、行政から補助金や助成金が付いたりする可能性が高くなります。しかし、今回のファイザープログラムで採択された団体が支援する当事者は、「犯罪加害者家族（World Open Heart）」「難民（名古屋難民支援室）」「刑事被拘禁者（監獄人権センター）」「中堅世代のデートDV被害者（エンパワメントかながわ）」「難病児家族（はなみずき会）」といった、社会から見えにくい存在であるが故に、支援が届きにくいという特徴を持つことが明らかになりました。なかなか公的な支援を受けることができない活動だからこそ、民間助成であるファイザープログラムが支援をする意義があると言えるでしょう。

#### 2. 問題の所在のクリアさ

採択された団体の活動内容や応募書類、プレゼンテーションを通じて言える二つ目の特徴として、「問題の所在のクリアさ」を挙げることができます。ただ起こっている事象を説明するだけではなく、なぜそれが起こるのかという社会背景、当事者の動向を数字で経年的に示すなどして、問題の分析をクリアに行い、活動のターゲットが明確に示されている団体には、高い評価が

なされました。これは、団体の通常の事業を並列し、そのまま助成申請を行う応募については評価が低くなる傾向と表裏の関係だと言えるでしょう。また、本助成は継続助成ですので、これまでに何が達成でき、次のステップとして何を狙っているのかという、自身の活動についても問題分析がなされていることが評価のポイントの一つとなりました。

### 3. 社会的孤立への挑戦

採択された団体の三つ目の特徴として「社会的孤立への挑戦」を挙げることができます。「ひきこもり者への就労支援（ウヤギー沖縄）」「母子世帯の母親支援（女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ）」「ホームレスへの寄り添い支援（NPO ホットライン信州）」など、社会的に孤立する傾向にある人々への丁寧な伴走型寄り添い支援に高い評価がなされました。ただ、生活困窮者自立支援は法制度が整備され、公的財源による事業も実施される状況にあります。そうした公的事业と役割分担をしつつ、市民セクターならではの活動意義を示す必要性があると感じました。また市民団体がその活動実践に基づき、社会や制度に対して支援の必要性を訴えていくソーシャルアクションに今後期待をしたいと思います。

残念ながら採択に至らなかった団体も、決してその活動に意義を見出せなかったということではなく、それぞれに今後の活動の継続・発展を期待したものばかりでした。

ファイザープログラムの継続助成にご応募いただいた全ての団体のこれからのご発展を願い、活動につながる当事者お一人おひとりの生活に、少しでも笑顔が増えることを祈っております。

## 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

### 【助成2年目】

プロジェクト名：	中堅世代の加害者家族の支援モデルの構築
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 World Open Heart
代表者名：	阿部 恭子
主な活動地域：	宮城県・大阪府

本団体は、2008年に設立され、10年間で1,300件以上の加害者の家族支援に取り組んできた市民運動型NPOである。加害者家族支援を通じて、家族の自殺防止や加害者の再犯防止、生活困窮化の防止、犯罪に伴い家族が社会的に被る不利益の世代をまたぐ連鎖を断絶し、加害者家族の就労が継続でき、子どもたちが学校に通い続けられることをめざしている。

助成1年目は、関西の団体と連携して相談ホットラインを開設し、当事者が集う場を設け、シンポジウムの開催や書籍の発行にも取り組んだ。助成2年目では、これらの取り組みを一層強化するとともに、継続的なカウンセリングを基礎に加害者家族の子育て支援、就労支援を実施する。

活動内容は総じて、一般的には認知されていない社会の現実に入り込むものであり、加害者家族支援モデルが構築されることを期待したい。

プロジェクト名：	中堅世代の刑事被拘禁者向け医療相談事業
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 監獄人権センター
代表者名：	海渡 雄一
主な活動地域：	東京都

本団体は、一人でも多くの受刑者が社会の一員として誇りを持って生きられる社会を実現するため、支援および政策提言活動を行ってきた。被拘禁者からは年間約1,200件もの相談が手紙で寄せられるが、その中には医療に関する相談が多数含まれている。

助成1年目は、刑事施設における医療実態に関するヒアリング調査、「被収容者のための心と身体のヘルスケアガイド」の発行などを実施し、情報提供や政策提言に取り組んだ。その過程で、深刻な心身の不調が疑われるにもかかわらず、適切な医療が受けられない事例が見えてきたことを受けて、助成2年目は事例を収集し、問題を広く周知するためのセミナーの開催や生活環境の改善などの政策提言を行う。

被拘禁者が医療情報を入手でき、適切な医療措置を受けられるよう刑事施設の医療状況が改善されるとともに、心身の健康状態を良好に保ち、出所後の社会復帰につながるよう活動の展開に期待したい。



**プロジェクト名：** 中堅世代の病と生活困難者への自立に向けた寄り添い型支援  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州  
**代表者名：** 村上 晃  
**主な活動地域：** 長野県

本団体は、地域の福祉ネットワークを活かしながら、生活困難者や一人親家庭に、無料電話による「寄り添い何でも相談」、面談・同行支援、食品・生活必需品支援、多様性のある居場所（こども食堂・就労体験）への参加支援に取り組んでいる。

本プロジェクトは、生活困窮者自立支援制度と重なる部分も多いが、制度が補えない点を丁寧に拾い、SOSを出した当事者に必要な社会資源をつなぐ活動が評価された。

強い思いで活動されている様子が浮かぶが、公助や共助など、他の社会資源との連携を整理しながら活動を強化し、地域全体でお互いを支える仕組みづくりに取り組んでいくことを期待したい。

**プロジェクト名：** 孤立する難民と地域社会の市民をつなぐ関係構築プロジェクト  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 特定非営利活動法人 名古屋難民支援室  
**代表者名：** 名嶋 聡郎  
**主な活動地域：** 愛知県

難民認定制度の運用が厳格になり、日本の難民認定申請者を取り巻く環境や彼らに向けられる目はますます厳しくなっている中、本団体は東海地域に暮らす難民を対象に、安定して自立した生活を送れるよう支援してきた。

助成1年目のプロジェクトで取り組んだ東海地域の外国人コミュニティの訪問調査から見えてきたニーズを踏まえ、助成2年目は外国人コミュニティでの生活トラブルを防止するための講座、日本語学習、一般市民向け難民理解講座などを計画している。

既存の仕組みではカバーできなかった課題や支援が行き届かない人の課題を解決し、難民を包摂する地域社会が実現することを期待したい。

## 【助成3年目】

プロジェクト名：	埼玉県西部地区における未就学時期の難病児子育て応援プロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	社会福祉法人 はなみずき会
代表者名：	都築 公子
主な活動地域：	埼玉県

本団体は、保育士や看護師を抱える社会福祉法人で、埼玉県西部地区に在住する希少・難治性疾患を持つ子どもとその保護者の当事者団体ニモカクラブと協働で、家族介護者の孤立や心的負担を軽減することを目的に、患者家族交流会などに取り組んできた。

希少・難治性疾患の患者会は少なく、自治体の支援も届きにくい現状にあり、本プロジェクトは地域のニーズに応えた取り組みとなっている。助成3年目では、難病患者自身やその家族の就労支援に取り組む計画であり、今後の展開として児童発達支援事業の開始をめざしている。

いずれの活動も当事者に寄り添った段階的かつ発展的なプロジェクトとなっており、地域に一層浸透していくことを期待したい。

プロジェクト名：	デートDVの実態から中堅世代の生きづらさと適切な支援方法を明らかにするための研究
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ
代表者名：	阿部 真紀
主な活動地域：	神奈川県

本団体は、暴力のない社会と一人ひとりが大切な人として扱われる社会の実現をめざし、2004年に設立された。

本助成による2年間の市民研究の成果として、結婚していない中堅世代の女性がデートDV被害に遭いやすいこと、2017年は過去5年間に比し相談件数が3倍近くに増えていること、中堅世代の男性も被害に遭いやすいことが明らかになった。また、デートDV被害に遭っていることに気づいていない当事者が少なくないことが分かり、周囲の人への適切な支援も重要であると考察している。

これまでの研究成果を踏まえ助成3年目では、デートDV相談対応マニュアルを作成し、「デートDV110番」の相談員のスキルアップや全国での相談体制の構築をめざす。本プロジェクトは、先駆的であるとともに、中堅世代の人が無自覚に陥る可能性のある課題を顕在化させた取り組みとして社会的意義が大きい。

**プロジェクト名：** DV 被害等による生きづらさを抱えた女性のための居場所づくり事業  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ  
**代表者名：** 正井 禮子  
**主な活動地域：** 兵庫県

本団体は、DV 被害や虐待被害など危機的な状況に陥っている女性たちの一時避難施設（シェルター）の運営や相談、生活再建などのサポートを行っている。

DV 被害などによる生きづらさを抱えた女性たちの就労への意欲が生まれ、それが継続するには時間をかけて心理的修復を図る必要がある。「WACCA」という居場所を運営して、心の回復や安定に役立つと考えられるプログラムを提供し、その検証に取り組んだ。助成 3 年目は、プログラムの定着と質的な深まりをめざす。

当事者のニーズに寄り添い、他の団体や研究者とも市民活動団体らしい関わりを持って運営が行われている。当事者目線での「こうなったらいいな」の実現のために、着実に歩み続けていくことを期待したい。

**プロジェクト名：** 沖縄コーヒーの活用と循環型事業でひきこもりの生き方開拓  
**助成種別：** 市民活動・市民研究  
**団体名：** 特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄  
**代表者名：** 近藤 正隆  
**主な活動地域：** 沖縄県

本プロジェクトは、ひきこもり状態にある人にコーヒーの種などを配布しこれを育てて販売につなげる、農業を活用した循環型市民プロジェクトである。

対象者の多くは中堅世代となっており、彼らの心の健康支援が本プロジェクトの主たるねらいであるが、同時に、プロジェクトに参加した元ひきこもりの人が支援者となり、現在ひきこもり状態にある人を支援していく体制も循環型を呈している。

この両循環が、本プロジェクトが継続して発展してきた仕組みとして評価された。また、農家とのつながりは、地域でひきこもり状態にある人を支援していく仕組みとなっており、地域そのものに働きかけていく市民活動として意義がある。

今後は、全国的に知名度を上げ、ビジネスとしての展開を視野に入れるが、沖縄コーヒーの栽培という地域性を活かしたひきこもりの就労支援モデルが定着することを期待したい。